

巻 頭 言

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第19回学術大会開催に向けて

このたび、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第19回学術大会を、2025年10月11日(土)、12日(日)の2日間、岩手県盛岡市の「いわて県民情報交流センター アイーナ」にて開催させていただくことになりました。開催に向けてご挨拶を申し上げます。

第19回学術大会のテーマは「ジェネリック医薬品・バイオシミラーの在るべき姿を考える」といたしました。ご存じのように、我が国の医療は今、かつてない変革期にあります。超高齢社会の進展や医療技術の高度化などを背景に国民医療費は増大を続けており、医療財政を安定化させ世界に冠たる我が国の国民皆保険制度をどのように継続するかが問われる中で、ジェネリック医薬品およびバイオシミラーの果たすべき役割はますます重要となっております。ジェネリック医薬品の使用は、患者負担の軽減や医療財政の改善に資することから、その使用が推進されてきました。しかしながら、一部の品質不祥事に端を発したジェネリック医薬品の品質・供給不安から、医薬品供給体制の脆弱性が露わになり、現在においてもジェネリック医薬品のみならず医薬品全体として安定した供給の確保が難しい状況が依然続いております。一方、令和6年の診療報酬改定では、先発医薬品選択への選定療養費制度の導入やバイオ後続品使用体制加算が新設されるなど、より着実なジェネリック医薬品およびバイオシミラー使用促進のための施策が実施されております。これら医薬品の更なる使用推進に関しては医療者の理解と共に患者の理解が重要なことは言うまでもありません。本学術大会では、ジェネリック医薬品・バイオシミラーの在るべき姿、すなわち、私たちが目指すべき将来像を、単にコスト削減の観点にとどまらず、医療全体の質的向上や医薬品の信頼性、供給の安定性など、いろいろな側面から問い直し、課題解決に向けた幅広い議論ができればと考えております。

今回の盛岡大会は、開催側の諸事情から10月の開催とさせていただくことになりました。現在、本学術大会にご参加いただく全ての皆様にとりまして、実りある議論の場となり、親睦の場となりますことを心より願い、開催に向けて鋭意準備を進めさせていただいております。

学術大会を開催させていただく盛岡市は、ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2023年に行くべき52カ所」で、ロンドンに続く2番目の街として紹介されております。名だたる観光地には遥かに及びませんが、街の風情と美味しい食べ物、そして人柄は自慢できる魅力ではないかと考えております。是非、紅葉の盛岡にお越しいただき、ジェネリック医薬品・バイオシミラーの在るべき姿を考える機会とし、これら医薬品の発展に寄与していただければと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2025年5月

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第19回学術大会 大会長
岩手医科大学薬学部臨床薬学講座教授・附属病院薬剤部長

工 藤 賢 三